

事業協働機関による情報発信事業（シーズ集の作成）

第一次産業の六次産業化支援のための大学・高専等シーズ集の作成と配布

プロジェクトメンバー

熊本県立大学 地域活力創生センター センター長・松添直隆

連携機関 熊本大、熊本学園大、崇城大、東海大、尚絅大、九州看護福祉大、熊本高専等

プロジェクトの概要・目的

COC+事業に取り組む8大学・高等専門学校と、熊本県内農業系高等学校のうち6高等学校のシーズを集めた『第1次産業の6次産業化推進に向けた研究・教育シーズ集』を作成した。地域の雇用創出のために、大学・高等専門学校の研究シーズを第1次産業の競争力強化と6次産業化につなげることを目的にしている。そのため、収録した研究シーズは、単に第1次産業の「生産」に関連するものだけでなく、第1次産品の「加工」、それらの「流通・販売」、機能性評価等の「応用」分野、さらに「地域」づくりに及んでいる。

また、従来、各大学等では当該大学等に所属する研究者に関するシーズ集（「研究者総覧」等）は作成されていたが、大学・高等専門学校の枠を超えて特定のテーマで作成された『シーズ集』はほとんど前例がない。その点でこの『シーズ集』は画期的と言える。さらに、農業系高等学校も優れた教育実践や研究を行っているうえ、学校が所在する地域との連携にも積極的であることから、農業系高等学校のシーズも取り上げた。

『シーズ集』は作成することが目的ではなく、産業創生や雇用拡大に資することが目的であるから、今後、この『シーズ集』の積極活用が求められる。

活動内容と成果・効果

今回の『シーズ集』は全64ページ、500部作成した。52名の大学・高等専門学校の研究者から寄稿があった。また、COC+事業の説明と熊本県における実施体制、大学・高等専門学校、県内農業系高等学校の連絡先等も収録した。企業や自治体からの問い合わせに應えるためである。

刊行してまだ日が浅いが、すでに研究者の紹介要請等大きな反響を呼び起こしつつあり、また大学・高等専門学校の教職員からも、これまで知らなかった研究者の存在や研究内容がよく分かって役に立つとの声が聞かれる。今後さらに広く利活用されることはほぼ確実であり、期待される。

(資料)

プロジェクト名: 事業協働機関による情報発信事業(シーズ集の作成)

プロジェクトのテーマ: 第1次産業の6次産業化支援のための大学・高専等シーズ集の作成と配布

○『第1次産業の6次産業化推進に向けた研究・教育シーズ集』

(表紙)



○(下左)『COC+事業 資料集』、(下右)『平成28年度 実績報告』

